

第3回浅川流域協議会 要旨

日時：平成15年9月8日 14:00-17:15

場所：古里公民館 出席会員 70名

1 開 会 佐藤座長

2 会員の自己紹介

第1回、第2に出席できなかった会員(3名)、新規会員(1名)の自己紹介

3 第2回協議会要旨について事務局から説明

4 前回質問事項に関する説明

(1) 流域対策原案に対する5月住民説明会意見反映に関するチャート(56桐原会員)

P1に基づき説明(企画課：佐藤流域対策幹)

(2) 河川改修原案に関する質問事項(6 竹内会員)

P2～P3に基づき説明(浅川：和田主査)

(3) 流域対策原案(遊水地)に関する質問事項(6 竹内会員)

P5に基づき説明(企画課：佐藤流域対策幹)

(4) 長沼排水機場に関する質問事項(6 竹内会員)

P6～P10に基づき説明(土地改：市川課長)

(5) 流域対策原案(ため池・水田貯留)に関する質問事項(6 竹内会員)

P11～P12に基づき説明(土地改：市川課長)

(6) 流域対策原案(森林整備)に関する質問事項(3 山岸会員、4 竹内会員)

P13～P14に基づき説明(林務課：後藤課長)

(7) 内水処理計画検討に関する質問事項(50 丸山会員)

P15に基づき説明(長建：増沢課長)

・意見(12 清水会員)

千曲川、鳥居川、浅川に最も近い場所に家があり、54年間、水害とつき合ってきた。平成7年、鳥居川により2階まで浸水した。また、千曲川上流のダムの放水により、毎年、畑地等が浸水している。特に昭和57年～59年には、避難勧告が続けて出されたが、飯山地籍の堤防が決壊して助かった。千曲川下流の整備無くして、浅川の議論をしても、災害を防ぐことはできない。千曲川の整備を知事、県議会を含めて国土交通省に請願しなければいけない。

今は、40年以上の柳が乱立しており、土砂が堆積しているため、豊野町は、水を貯める地域になっている。千曲川と浅川を合せて、整備することが大事である。

・質問、意見(6 竹内会員)

県土木部で降雨強度を昭和50年、60年、平成8年の数値を出している。昭和50年の1/70確率のデータで浅川の河川改修が行われている。平成8年の53mm/h、1/100確率が実際

には減っている。当然おかしくなるのは当たり前であり、降雨強度の値がおかしい。

(流出係数について、宅地から出る流出係数(道路、屋根)は、0.9~0.95である。現在、行っているのは、0.7位である。)昭和50年の浅川を改修する時に出された数値から見ると、宅地が倍になっており、その数値がどこにも反映されていない。

流速について、2.45m/s、2.57m/s、2.84m/sと回答があったが、県土木部で出されている数値は、2.1m/sあり、値が違っている。

鐘鑄川の流域について、「考慮している。」との回答であるが、浅川の流域には、この面積が入っていない。P7の図面を見ると面積に入っていないので質問した。

河川の護岸勾配については、河川法で決まっているものである。改修する場合は、この法律が適用され、河床を掘ることはできない。

河道内遊水地について、川に流れてくる物は、何が流れてくるかわからない。流木等が流れてくれば、スリットを入れることにより、引っかかって止まってしまう。

中越池・弁天池・北の池について、「浅川流域ではありません。」との回答であるが、流域対策原案P14に長野市から出された貯留施設に入っていたので、質問として出した。

・回答(浅川：和田主査)

基本高水について、当面の目標を450tとし、再度見直しすることとなっている。流出係数等含め見直ししていく。

・回答(浅川：倉田主任)

雨量強度について、浅川は、昭和52年当初から1/100確率の降雨強度式を用いている。

流出係数については、加重平均により出しているため、問題はないと考えている。

・回答(浅川：和田主査)

流速が大きすぎるについて、河川砂防技術基準(案)で流速の規定がなくなり、先程説明した流速をとっている。

河川護岸の小段について、土提の場合の構造基準であり、コンクリートで覆われたものについては、この限りでない。浅川は、コンクリート護岸であり、安定計算も行っている。

・回答(企画課：佐藤流域対策幹)

河道内遊水地のスリット構造について、構造は今後検討していきたい。また、土砂対策についても、今後検討していきたい。

5 原案に対する質疑について

・佐藤座長

8月29日の協議会后、事務局へ質問を出された方がいた。座長代理とも相談したが、流域協議会で質問を取り扱うため、直接会員の皆さんが事務局へ出すことについて遠慮してもらいたい。また、どうしても質問したい会員は、会の閉会前に座長までメモ等を提出願いたい。

座長の後ろに関係機関の席を設けていたが、関係機関も会員の皆さんと共に協議していく協議会にしたいため、今回、座席の形式を変更し、今後もこの形式で行いたい。

県の関係機関に質問するのも結構であるが、原案に対する自分の考えを出し合い、会員相互の皆さんも意見を出し合う場にしていき、より建設的な議論の出来る協議会にし

ていきたい。

・回答（長建：児玉所長）先程の千曲川の質問に対する回答

千曲川については、5月の説明会時にも「河川改修要望」、「立ヶ花の狭窄部の開削」、「浚渫要望」等意見が多く出た。その後、県では何度か国へそのような提言を行ってきた。今回、会員募集の提案書の中にも、千曲川について多く関心を持っていることが伺える。内水問題は、千曲川と非常に関連があるので、千曲川の問題については、色々な提言を取りまとめ、流域協議会として出していきたい。

・質問（117 中野会員）

質問の前に、会議を全体でやることは、議事の進行上難しいと思う。

河川改修で100億、流域対策で100億と説明があったが、河川改修の ~ 区間の概算費用について示してほしい。

流域対策の遊水地の問題については、漠然たる回答であった。東西、南北何m、地権者何名等絞った計画にしてもらいたい。

・回答（浅川：和田主査）

全体で100億であるが、あくまでも概算であり、高い精度での事業費の算出は行っていない。橋梁等架替えについても、詳細設計等行っていないため、現段階では答えられない。

・回答（企画課：佐藤流域対策幹）

遊水地について、場所は原案で示したように、檀田付近（長野高校第二グラウンド南側）と田子川合流点付近である。30m³/sの流量をカットするには、概ね5万m³~10万m³の貯水量を想定している。詳細については、貯留関数法の詳細な計算を行った中で、遊水地の大きさが決まってくる。場所についても、地権者等の協議の中で決まってくる。面積については、2~3ha、水深3m程度を想定している。

・質問（55 出口会員）

自分自身で計算してみたが、断面不足の区間が生じる。 区間について、流量配分を伺いたい。

・回答（企画課：吉川主任）

千曲川合流点で1/100確率、450m³/sの基本高水流量を設定してある。8割、2割は、450m³/sに対して2割の90m³/sカットは、合流点に対して言っている。ダム地点の基本高水流量が130m³/sの内、8割を河川改修、残りの2割を流域対策で行う計画である。なお、上流で90m³/sをカットすれば、下流での対策は不要である。

・質問（54 山岸会員）

過去60数年間、千曲川と浅川の水害を見てきた。一番水が出た時（木島平村の水害）には、千曲川の水で手が洗えるくらいの高さだった。その時に浅川の水位は、千曲川の水位の3m~4m下で、ポンプによる排水をしていた。

豊田村、飯山、西大滝のダム、等で千曲川の水が流れない。長野地区の水が早く流れないか疑問である。

東部、佐久、八ヶ岳高原で高原野菜を作っているが、マルチをかけて栽培しているため、かつては、8時間かかって佐久の鯉が流れたきたが、今は4時間で流れてくる。佐久の水をいかに静かに流すか考えたい。

・佐藤座長

流域協議会の意見・提案整理表を見てほしい。今の意見の千曲川の件については、「内水対策の千曲川」に意見が多く出されている。これは、皆さんから公募した時の意見・提案を集約したものである。千曲川の問題については、浅川の内水対策の大きな柱になっていくので、千曲川については、一つにまとめて議論をしていき、皆さんの一致点を見いだして関係機関に上げていきたい。

・意見（12 清水会員）

千曲川の増水は、ダムを放水することにより大きな災害をもたらすことである。従来は、ある程度時間を指定し豊野町へ連絡がきたらしいが、最近では自分本意で放水してしまい、次の日ぐらいに水が増水してくる。「ダムをやめて、河川改修が遅れているのは、災害があったら、県の責任だ。」と言っている人がいるが、これは、千曲川を整備しない国土交通省に問題がある。

・意見（8 中沢会員）

赤沼の新幹線車両基地横に、過去からの水位標に昭和58年の水位標がある。昭和58年は、河川改修が進み川幅が狭くなった。明治に4回の水害があった。その水位は、昭和58年の水位より高い。当時は何も堤防がなかった。大きな増水があったのは、明治43,44年が最後。その後90年、大きな増水がない。昭和56,57,58年、千曲川は、長野盆地、飯山盆地に大きな水害があったが、国土交通省は、「大きな出水ではなかった。」といている。この原因として、降った雨を早く下流に流すことをやってきたためである。明治時代は、千曲川だけでも50箇所以上が氾濫していたが、上流では殆ど被害が起きていない。

新潟県は、1/150確率であるが、長野県では1/100確率であると共に、新潟県では、大川津分水や関谷分水等の対策が行われているが、長野盆地や飯山盆地は、水害の後に対策が行われ、将来に向かっての対策が行われていない。治水・利水・ダム等検討委員会においても、国土交通省は、長期的方針であると言っており、すぐやる気持ちが無い。

千曲川の問題は、非常に奥が深いので、別に切り離して議論してはどうか。

・佐藤座長

意見・質問があるかと思うが、一人2,3分でお願いしたい。

・意見（3 山岸会員）

浅川ダムを造ったほうが、内水災害はひどくなる。浅川ダムは穴あきダムなので、だらだら水を出し、千曲川は後から洪水が激しくなる。県の資料を使って計算した結果、昭和57年型で25万t、昭和58年型で55万tの水が余計に溢れる結果となった。

千曲川の抜本的な対策を国土交通省がさぼってきており、県や市の要求が弱かった。

先程、千曲川の流れが速くなったと意見があったが、その理由は、佐久一帯が唐松の人工林であり、風倒木が多く土地崩壊が起きているため、千曲川の流れが変わった。また、東京電力水内ダムの堆砂が原因である。

・意見（6 竹内会員）

千曲川の立ヶ花が5mになると、千曲川の逆流防止のため、土地改良区に電話がいき浅川の水門を閉められる。浅川のH.W.Lの標高が331.41m。水門が閉められた状態で、ポンプが稼働できる最高の高さは、303.5m? (14t/sポンプ)、335.8m(30t/sポンプ)であり、

千曲川の高さが337.85mである。千曲川がこの水位になった場合は、一切水が出ない。

水門が閉まった状態で、内水対策のことを考えなければならない。

・意見（関座長代理）

千曲川の堆積した土砂は、従来、砂利として採取できたが、現在は採算が合わないため、採取しなくなっている。河川内の畑地も膨大な土砂の量があることを国土交通省も計算しているが、はかどらない状況である。県や国土交通省の怠慢だと言っているが、立ヶ花を開削したら、下流の新潟までやらなければならない、手をつけられない状況であると思う。

水門が閉まった状態において、内水氾濫を防ぐことを第1条件に検討し、しかる後に狭窄部の対策を県としても、協力に要請してもらえばと思う。

・質問（93 山崎会員）

浅川と南浅川の合流地点に河道内遊水地を設けることについて、浅川は土砂の流出が多いので、短時間に埋まってしまうと思われるが、この原案の中には、土砂対策について何も書かれていないため、土砂対策について伺いたい。

・回答（企画課：佐藤流域対策幹）

河道内遊水地は、ダム予定地としてを既に土地を取得しており、それを利用しながら遊水地を造りたい。普段は水が流れており、ある一定の量の水がきた場合、自動的に貯まる構造を考えている。土砂対策は、河道内遊水地とは別の観点から土砂対策を考えていきたい。

・質問（134 田嶋会員）

バードラインが開通して以来、飯綱山麓の開発が進んでいる。宅地、駐車場、他施設等の進出がある。これをどうやって規制するか伺いたい。原案の中にも項目として上がっているが、早くやらないければ広がってしまう。

・回答（企画課：佐藤流域対策幹）

飯綱地域については、宅地開発がかなり進んでいるが、飯綱地域の都市計画区域の指定の事務手続きを進めている。また、長野市の自然環境条例の中で、開発を規制していく方針である。

・質問（4 小林会員）

この協議会の運営について提案したい。これだけ大勢の皆さんが発言してもらっては無理がある。そのため、グループに分け、少人数で議論できるよう考えてもらいたい。

議論も多岐に渡り、話しがつかない。論点を整理して議論できるようグループに分けて会議を進めてもらいたい。（河川改修、流域対策にグループ分け）

河道内遊水地は、ダムの是非を議論した場所であり、地質の悪い場所でもあるので、できるだけ構造物を避けてもらいたい。浅川は土砂の流出があり、真光寺と駒沢は土砂が貯まる。土砂対策をしっかりとってもらいたい。

千曲川との関係は、水門を閉められればどうにもならない。ポンプ能力の増設を要望しているが、千曲川が増水すればポンプアップできない。千曲川の問題は、立ヶ花でなく、笹倉の急カーブの狭窄部にある。それを解決しても飯山盆地が大水害になってしまう。飯山の問題は、西大滝ダムの撤去を視野にいれなければならない。そこまで視野にいれて議論していかないと抜本的な対策にはならない。

・質問（124 中沢会員）

まず、浅川の問題を考えてもらい、この会で下流の問題まで考えていたら、いつまでも結論が出ない。この会は浅川を対象に考えてもらいたい。

本日の資料P15ページの放水路は、浅川から新たに放水路を造り千曲川へ出す計画なのか説明願いたい。

・回答（長建：増沢課長）

内水対策の放水路については、長沼幹線の途中から千曲川へポンプを用いて抜く計画である。

・回答（企画課：佐藤流域対策幹）

河川改修に合わせ、ピーク流量をカットしなければならない。上流域のため池、河道内遊水地でカットしなければ、河川改修のみでは対応できない状況にある。更に詳細な調査を進めながら検討していきたい。

・佐藤座長

今後の会の運営方法について、全体で進めるか、グループ分けて進めるか皆さんの意見を聞きたい。

・意見（12 清水会員）

意見が多岐に渡るのは有意義であると考えており、現在の会議が最良である。

・意見（8 中沢会員）

浅川の問題と千曲川の問題は、かみ合わないので、グループ分けするか、日によって議論を絞って会を進めたらどうか。

・意見（不明）

色々な質問を出したら、次回に回答してもらおうようにしてもらい、グループ別で進めようか。

・意見（6 竹内会員）

皆さんが意見を出し合い、多数の意見についてまとめていけば全体でできる。次回の論点について決めてもらい、その論点について議論すれば、何人であろうと一緒に議論できる。

・意見（62 土屋会員）

総合的な治水対策であり、総合的な考え方が大事である。部分的（専門的）に分けてはどうかと思う。

治水・利水対策推進本部の体系図に基づき議論をしていってはどうか。

・意見（57 武田会員）

私は上流部に住んでおり、下流部の皆さんの意見も聞きたい。ぜひ全体で会議をお願いしたい。

・佐藤座長

全体で会を進めたほうが良いとの意見が多いようですが、反対の意見がありますか。

・意見（12 清水会員）

色々な観点から意見が出され、お互いに勉強になる。グループ分けするには、どのように分けたらよいか複雑になる。全体会議は崩さないで進めてもらいたい。

・意見（129加藤会員）

3回程度の会議で方向を出すのはどうかと思う。皆さんの意見が出尽くした中で分科会等検討してはどうか。

・佐藤座長

全体会を崩さず次回もこの形式で行う。但し、中心のテーマを設け、関連問題を含め議論をしていく。次回は、原案全体でなく、一つ一つをテーマにして進めたいが、その方法については、任せてほしい。その点については、次回の開催通知にて説明する。

・質問（56 桐原会員）

アドバイザー、学識経験者の候補の考えを伺いたい。会員 = アドバイザーも良いと思うが、アドバイザーの取り扱いについて聞きたい。

・回答（浅川：大坂企画員）

アドバイザー、学識経験者の具体的な方はいない。

・回答（地事：金井所長）

積極的な議論をしてもらい、実現可能な具体的提言をとのことで、この協議会を進めることになっている。議論を進め、協議会の中でうまくいかず、具体的意見がほしい場合、協議会の中でアドバイザーを決めてもらいたい。

6 次回の開催予定について

9月26日（金曜日）午後から豊野町において開催するので、予定をお願いします。

7 閉会 17:10

以 上